財団法人 中東調査会
The Middle East Research Institute of Japan
المعهد الياباني لبحوث الشرق الأوسط

かわら版

2007年5月28日
No.119

―東地中海地域ニュース―

イスラエル：シリアとの和平交渉の可能性　（5月24日付「マアリブ」紙）

1. オルメルト首相は、シリアとの交渉開始の可能性を検討したが、現在どちらかといえば交渉を始める方向に傾きつつある。又、シリアとの交渉を「サウジ和平提案」へのイスラエルの前向きな回答にしたいと考えている。
   首相に近い筋は、ファタハが崩壊しつつあるパレスチナ・トラックが近い将来進む可能性がないとの現実を踏まえ、首相は、シリアとの和平合意は中東の戦略状況の本質的な変化となり、イランの孤立化に寄与するとの考えに説得されつつあると述べた。
   当面、労働党の党首選を待たねばならないが、バラク元首相が勝てば、この考えのパートナーになると期待している。

2. 軍・治安関係者の間では、シリアとの交渉開始への支持者が増えている。
   軍(IDF)では参謀総長、参謀副総長、情報部長が、又、国防省政治担当局長や NSC 議長も支持している。IDF 筋は、現状維持の政策はほぼ間違いなく北部国境での治安状況の悪化をもたらし、それは瞬時に戦争になり得ると述べた。
   モサド長官も、これまでの姿勢を変えてシリアとの交渉を支持するようになった。同長官は、今でもシリアが「悪の枢軸」を放棄することはないと見ているが、他方、穏健アラブ諸国がこれをどう見るかについては、イスラエル・シリア間の交渉はテロ枢軸を壊し、シーア・イスラム主義革命を止めるために必要なものと考えるであろうとして、これら諸国がイスラエル・シリア交渉に反対しているとの主張を変えた。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。
ご質問・お問合せ先　財団法人中東調査会　TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799